

全国水産試験場長会 会長賞受賞！ (特許技術を活用したタイラギ中間育成技術開発)

内海研究部の多賀茂専門研究員は、令和4年度全国水産試験場長会において、会長賞を受賞しました。受賞研究業績は「二枚貝養殖方法の特許技術を活用したタイラギ中間育成技術開発」です。令和4年11月16日富山市で開催された令和4年度全国水産試験場長会全国大会で表彰され、受賞記念講演を行いました。



会長賞の選考理由は、次のとおりです。

アサリ、タイラギ等の二枚貝は資源が減少しており、増養殖技術の開発が重要である。本研究ではアサリを対象とした水路式陸上養成方式で特許を取得し、この技術をベースにタイラギの中間育成技術を開発したものである。

現在、山口県では、海中垂下式及び干潟移植式によるタイラギ母貝団地造成技術開発に、上記技術で中間育成された種苗を用いている。こうした一連の取組は、我が国における二枚貝増養殖に寄与するとともに地域の水産業の発展に大きく貢献するものと認められる。

◎目次

◇全国水産試験場長会 会長賞受賞！(特許技術を活用したタイラギ中間育成技術開発)

◇企画情報室(内海研究部) 岩政陽夫>

◇逃がしたホシエイは戻ってこない? <内海研究部 海洋資源グループ 畑間俊弘>

◇水産動物の輸入防疫について <内海研究部 増殖病理グループ 安成 淳>

◇操業に役立つ海底地形図を作成中 <外海研究部 海洋資源グループ 和西昭仁>

◇ガンガゼの口器中間骨による年齢査定 <外海研究部 増殖加工グループ 柿並宏明>

◇お腹に記録計の入ったクエを探しています <外海研究部 増殖加工グループ 國森拓也>

逃がしたホシエイは戻ってこない？

内海東部で建網漁業に大きな被害を与えているホシエイ（図1）の被害対策として、駆除が有効であることが昨年までの試験で判りました。しかし巨大なホシエイの処分に大きな労力が必要であることが問題でした。そこで、殺さずに再放流したホシエイが漁場に留まるのかを確認する目的でバイオロギング（図2）を実施しました。結果、標識を着けたホシエイ4尾全てが1～3日で再放流場所から7～50kmも移動しました（図3）。このことから、被害が発生している漁場で延縄等によってホシエイを釣って、一度痛い目に遭わせてから再放流するだけで、駆除同様に、漁場での漁業被害を軽減できる可能性があることが判りました。



図1



図2

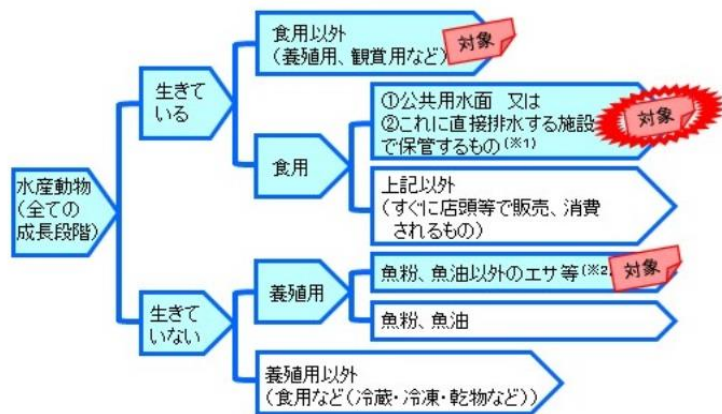


図3

水産動物の輸入防疫について

魚類、甲殻類など水産動物でも、新型コロナウイルス感染症のように国外からの新疾病の持込が懸念されます。令和2年にはタイから輸入したバナメイエビ種苗で急性肝臓壊死症が国内で初めて発生しました。感染症がまん延すると水産資源に被害をもたらすことが懸念されることから、輸入には農林水産大臣の許可が必要です。輸入手続きは農林水産省のHPを参照ください。

水産研究センターでは輸入後6ヶ月間、着地検査で感染の有無を確認する検査体制を整えていますので、輸入した水産動物で異常が見られた場合はご相談ください。

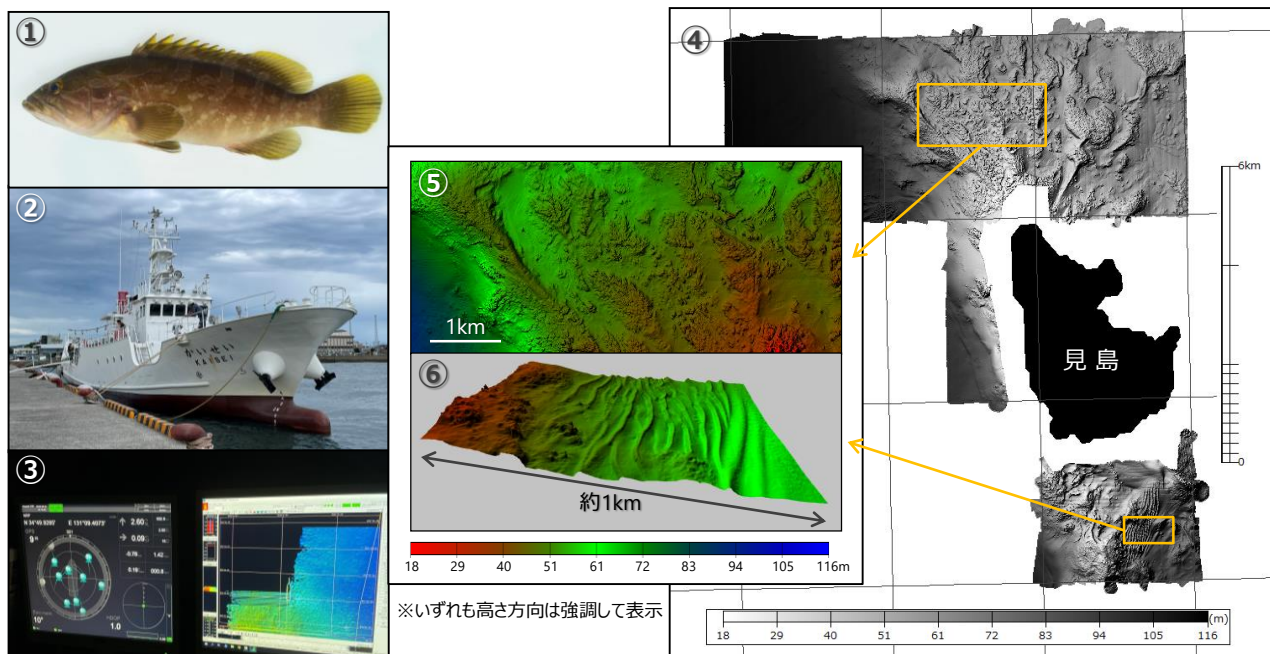


注意!

食用の活着しているもの(特にアワビ、カキ、クルマエビなど)を輸入後、出荷するまでの一定期間保管する場合、その保管施設で排水した水を下水道に排水する、十分な消毒後に排水する場合などは、輸入許可申請の対象外となりますので、あらかじめ必ず水産安全室にご相談下さい。

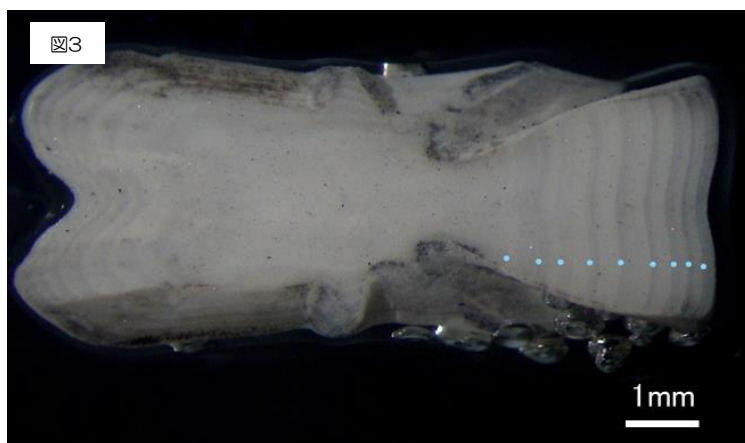
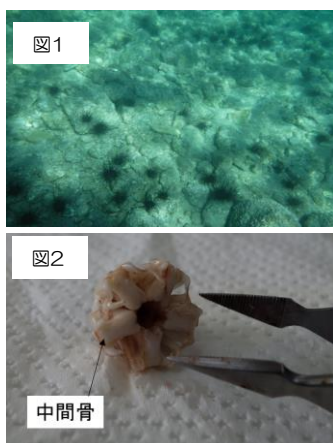
操業に役立つ海底地形図を作成中

高級魚であるハタ類など(図①:クエ)を対象とする操業に役立つように、漁業調査船かいせい(図②)に搭載されているマルチビームソナー測深システム(図③)を使った海底地形調査を行っています。令和4年8月に現地調査が終了した萩市見島周辺の海底地形図は図④のとおりで、現在、データの詳しい解析を行っています。また、場所によっては激しい凹凸(図⑤)や波状の美しい起伏(図⑥)なども確認でき、漁場の複雑な様相が捉えられています。こうした調査結果が操業の効率化や資源管理の一助になることを願うばかりです。



ガンガゼの口器中間骨による年齢査定

山口県の日本海沿岸域では、多くの地域で磯焼け(図1)の原因とされるウニ類(ガンガゼやムラサキウニ等)が増加しており、各地の漁業者らにより藻場回復を目的としたウニ類の駆除作業が行われています。これらの種を効率的に駆除するためには、まずはその種の年齢、成長、成熟等の基礎的生態を把握することが重要です。そこで当センターは、これまで不明であったガンガゼの年齢が加熱処理した口器中間骨により推定できることを明らかにしました(図2、3)。これにより、採集海域における本種の成長速度や年齢構成を推定できるため、駆除前の現状把握や駆除作業後の効果推定等に活用できると考えられます。



お腹に記録計の入ったクエを探しています

山口県と国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所八重山庁舎（沖縄県石垣市）は、令和3年度から共同研究（水産資源調査・評価推進委託事業）により、高級魚として知られる『クエ』の資源管理に向け、記録計を用いた行動追跡調査を行っています。

この記録計は、魚が経験した水温・水深・照度を経時記録するもので、再捕された魚から回収した記録計のデータを解析することで、クエの行動範囲、産卵回遊、行動パターンなどを推定することができます。

これまで令和3年10月に15尾、令和4年6月に10尾、11月に9尾のクエに記録計を装着して下関市角島周辺海域に放流しました（累計34尾）。

令和4年12月末までに13尾が再捕され、今のところすべての個体が放流地点付近の海域で漁獲されています。今後、これらのクエの記録計の解析を進めます。

生態に謎の多いクエについての貴重なデータが得られ始めていますが、まだまだデータが不足しています。写真のようなお腹に記録計が入ったクエを採捕した際は、水産研究センター外海研究部までご連絡ください。



山口県で放流 **背中**の**標識**

記録計
本体はお腹の中です

お腹からケーブルが出てます

- ・ 捕獲された場合、下記連絡先へご一報ください
- ・ 記録計の付いた魚は、魚体ごと買い取らせてください。通常の単価より高値で買い取ります。
- ・ 魚体がない場合は、記念品と交換させていただきます。
- ・ 獲れた日、場所、体長、体重を教えてください。

編集・発行 山口県水産研究センター企画情報室

外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

電話0837-26-0711 email:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

内海研究部 〒754-0839 山口市秋穂二島437-77

電話083-984-2116 email:a16403@pref.yamaguchi.lg.jp